

## アジアの英語教科書のレベルの比較

### CEFR推定語彙サイズと日本及びアジアの教科書レベルの比較

CEFRレベル	推定語彙サイズ	日本	中国・韓国・台湾	英検	TOEIC	TOEFL・iBT
C1/C2	8000語～	社会人？	大学	1級以上	701-	92-
B2	5500～8000語	大学	高等学校	準1級	541-700	62-91
B1	3000～5500語	高等学校／大学	高等学校	2級	381-540	42-61
A2	1000～3000語	高等学校	中学校	準2級	-	-
A1		高等学校	中学校			
PreA1	約1000語	中学校	小学校	3級	-	-

→日本の英語教科書のテキスト分量は、中国、韓国、台湾のテキストより平均して5～6分の1の割合しかない

「CEFR」: Council of Europeが作成した「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」(Common European Framework of Reference for Language)。言語能力を6段階(A1,A2レベル:基礎段階の使用者、B1,B2レベル:自立した使用者、C1,C2レベル:熟達した使用者)に分けている。なお、PreA1とはアルファベットや文字と音声の関係の習得が大きなハードルとなることなどのヨーロッパとは異なる言語文化事情を考慮して設定されている。

出典:小池生夫(明海大学外国語学部教授)「第二言語習得研究を基盤とする小、中、高、大の連携をはかる英語教育の先導的基礎研究」(平成20年3月)をもとに事務局作成

## アジアにおける小学校英語教育の導入状況

※数字は見出し語化、スペリング・エラーなどの修正前のもの。

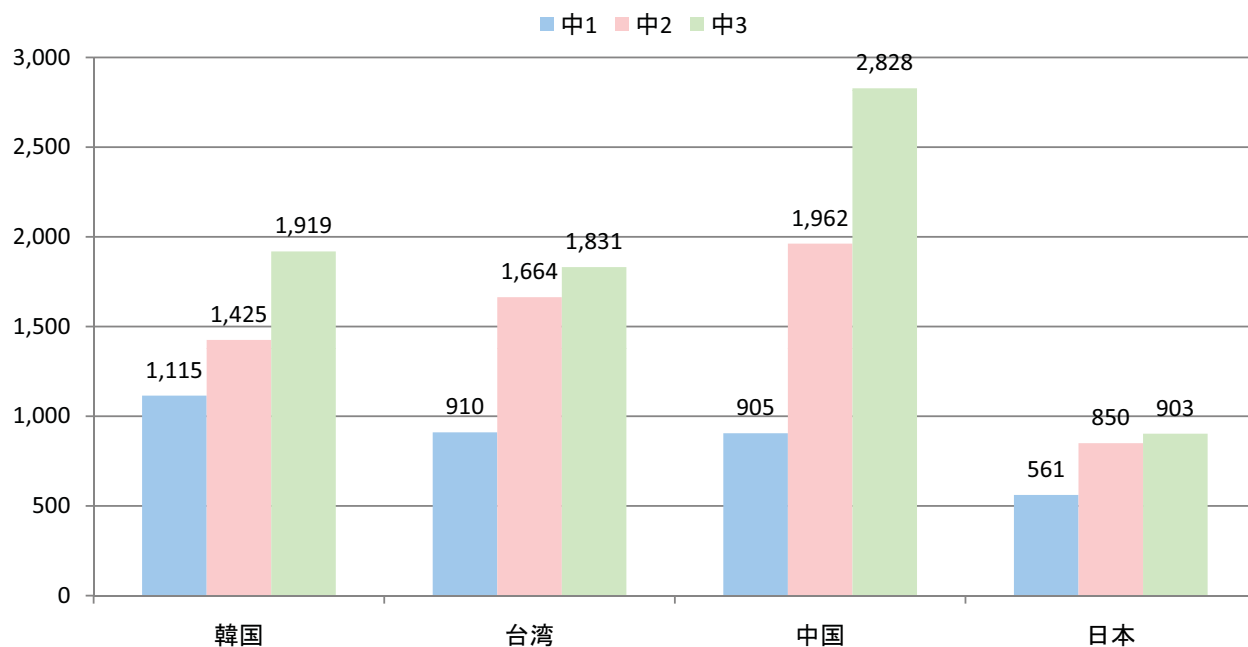
	中華人民共和国	大韓民国	台湾	
基本条件	導入時期	2001年:必修化を発表し、段階的に都市部から導入 2005年:学年進行で、必修教科として基本的に実施	1997年:必修教科として導入	2001年:第5学年から必修教科として導入 2005年:開始学年を第3学年に
	開始学年	第3学年～ ※地域により異なる。 (北京市や上海市等の大都市では、第1学年からの実施も少なくない。)	第3学年～	第3学年～ ※地域により異なる。 (台北市では第1学年から)
	授業時数	週4回以上、1回20分(ショートタイム)又は40分(ロングタイム)の組み合わせ。あるいは、いずれかの授業を行う。 第3、4学年は20分が中心。第5、6学年は、20分と40分の組み合わせ。そのうち40分を週2回以上。	3、4年:週1単位時間 5、6年:週2単位時間 ※1単位時間:原則40分	週2単位時間程度 ※地域により異なる ※1単位時間:40分
条件整備	教材	検定教科書、カセットテープ、CD-ROM等を活用した授業が行われている。	1種類の国定教科書、CD-ROMまたはカセットテープを全児童に無償で配付。	検定教科書やCD等による授業が行われている。
	教員	・教科担任制のもとで、専科教員が教えている。 ・各地方の行政単位で、夏期休暇中や放課後に教員研修機関での現職教員研修を実施している。	・一般に学級担任が教えているが、英語専科教員(現在6割弱の小学校で何らかの形で担当)の割合をさらに高めることを計画。 ・国主導で、英会話や英語教授法等から成る、最低120時間の現職教員研修を実施している。	・学級担任又は専科教員が担当。 ・1999年に、緊急的な措置として、専科教員を採用する試験を実施した。
	ネイティブスピーカー	ネイティブスピーカーはあまり活用されていない。 但し、先進校等では、学校が独自の資金で雇用している例もある。	EPIKプログラムにより、ネイティブスピーカーを招聘。初等学校には2005年4月で、315名が配置され、専科教員を補助している。	ネイティブスピーカーはあまり活用されていない。 但し、2004年から外国籍教員の招聘を開始。

出典:国立教育政策研究所「外国語のカリキュラムの改善に関する研究」(平成16年8月)などを踏まえ、文部科学省において作成

## アジアの中学で接する英語の分量

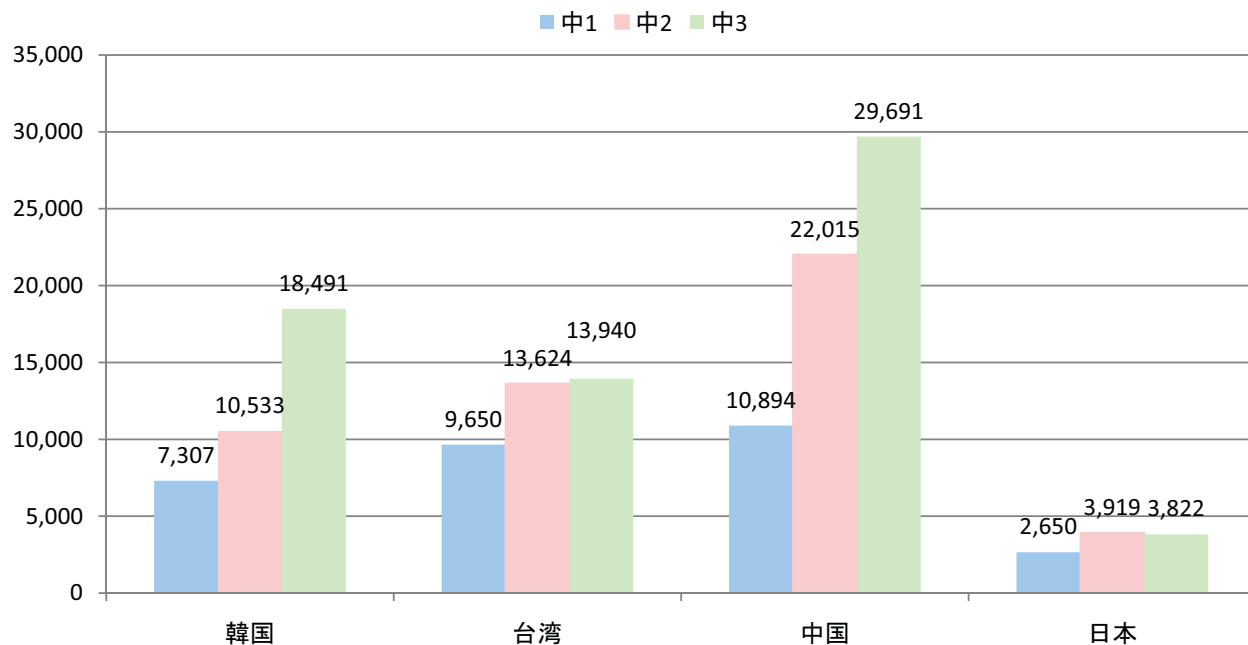
中学3年分の英語教科書に出現する異語数の比較

※学年ごとに異語数を計算(重複あり)



韓国・台湾は日本の約2倍の語彙量である。中国は日本の約2~3倍の語彙に触れている。

英語教科書3年分のテキスト本文の分量比較



韓国・台湾の本文は日本の2.5~4.5倍である。中国は日本の4~6倍のテキスト量になる。

## IBT TOEFL(2005-2006)の結果(アジア)

※iBT TOEFLは120点満点となっている。

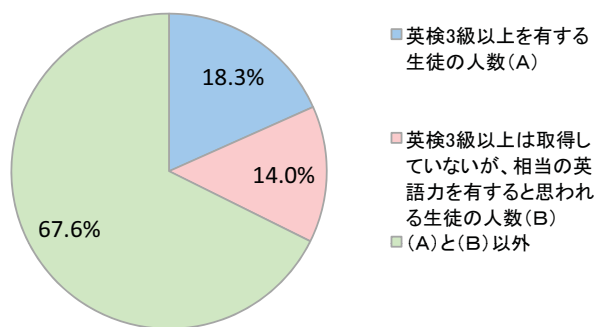
国名	受験者数	total score
シンガポール	144	100
インド	23,750	91
マレーシア	920	89
フィリピン	5,882	85
パキスタン	2,307	83
スリランカ	356	83
キルギス	118	82
バングラデシュ	649	80
香港	2,763	80
インドネシア	1,875	80
カザフスタン	656	80
ウズベキスタン	320	80
アゼルバイジャン	191	78
タジキスタン	35	77

国名	受験者数	total score
中国	20,450	76
トルクメニスタン	70	74
アフガニスタン	209	73
ミャンマー	98	73
大韓民国	31,991	72
タイ	3,886	72
カンボジア	134	71
マカオ	170	71
台湾	10,022	71
ベトナム	2,320	71
朝鮮民主主義人民共和国	1,270	69
モンゴル	438	66
日本	17,957	65

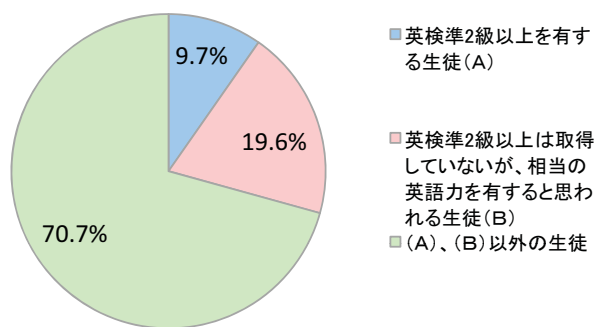
出典: Education Testing Service(ETS)「Test and Score Data Summary for TOEFL® Internet-Based Test」(2005年9月-2006年12月)

## 中学生、高校生の英語力の状況

### 中学校3年生



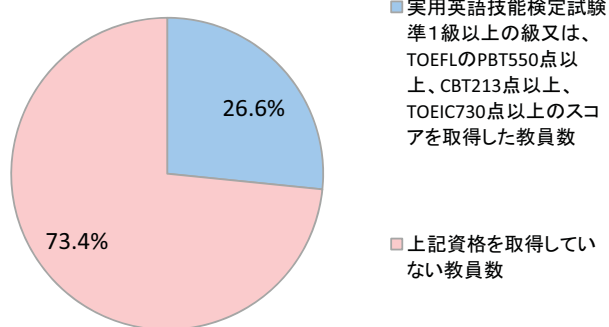
### 高等学校3年生(国際関係(語学含む)以外の学科・コース)



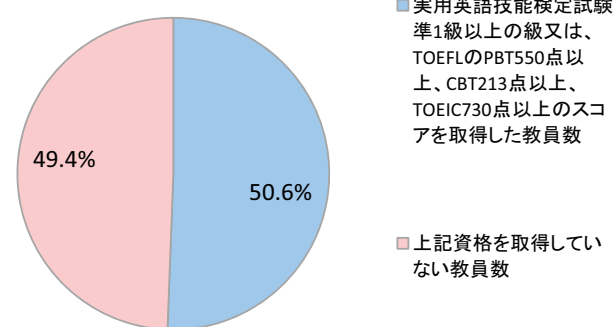
出典: 文部科学省「英語教育改善実施状況調査(平成19年度)」

## 英語教員の英語力の状況

### 中学校英語教員



### 高等学校



出典: 文部科学省「英語教育改善実施状況調査(平成19年度)」